

会 議 録		令和8年1月16日作成	令和11年3月末日廃棄
会議名	京都府亀岡警察署協議会（令和7年度第3回）		
開催日	令和7年12月1日（月曜日）		
時 間	午後3時30分から午後5時30分までの間（120分）		
場 所	京都府亀岡警察署 講堂		
出席者	湯浅会長、木曾副会長、栗山委員、櫻間委員、サミュエル委員、飛田委員、中澤委員、藤本（妙）委員、藤本（祥）委員、前田委員 （欠席 内藤委員）		計10人
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長、広聴相談係長		計10人
諮 問 事 項	1 亀岡警察署における災害対策について 2 災害現場における救助訓練（訓練見学）		
会 議 内 容	<p>1 会長挨拶 2 署長挨拶 3 諮問事項説明等</p> <p>(1) 亀岡警察署における災害対策について～警備課長 (2) 災害現場における救助訓練～警備課長・第二機動隊員</p> <p>【委員】ただ今、非常に緊張感のある訓練を見学させていただいた。私も自治会の活動の中で、毛布と竹を使った救助訓練や砂場の砂を使った土嚢づくりをした経験がある。このように、決して警察・消防や自治体任せにならぬよう、地域は地域なりに、今後も自分たちができる方法で訓練を重ねていかなければならないと思っている。</p> <p>【委員】亀岡市として災害対策に当たる時には、警察・消防にお世話になることが多々ある。市民にとって最善の策をとれるよう、相互間の連携を密にして、常日頃からの対策を怠らないようにしていかなければならない。</p> <p>亀岡市では関係機関の協力を得て9月に総合防災訓練を実施したところであるが、当日の朝には「災害対策本部訓練」というものも実施し、その中では「情報連絡員」ということで、警察や消防からも参加をいただいた。災害発生時にはどうしても情報が錯綜するが、自治体を中心として1箇所に情報を集約することで、現場対応や市民への情報提供などを効率よく行っていかなければならないと常々考えている。</p>		

会 議
内 容

京都府では今年5月、地震災害発生時の想定見直しを発表した。これまでは活断層地震により亀岡市民1万9,000人が避難をするという想定であったが、耐震化が進んだことにより避難者想定は1万4,000人となった。自治体ではその想定をもとに毛布などの必要物品、そして3日分に相当する食料の備蓄を行っている。各家庭でも「ローリングストック」、つまり普段の食生活に絡めながらストックした保存食品を回し、常に新しい物が一定数備蓄されるよう努めていただきたい。

【委員】昨日、地域の炊き出し訓練を実施した。その訓練は毎年欠かさず行っているが、今日の救助訓練を見学させていただき、その熟練度に繰り返し訓練することの大切さを改めて感じた次第である。

【委員】自治会には災害対策の備品として大鍋がある。以前は炊き出し訓練も定期的にできていたが、最近は大人数が集まることはなかなか難しい。また、最近の傾向としてガスボンベの調達が難しくなっている。これらの現状を踏まえ、いつ災害が発生しても対応できるよう日頃の備えをしていかなければならない。

【委員】本日、災害時における救助訓練を見せていただいたが、傷病人の搬送方法など、知っていれば我々でも役に立つものがあつた。私が活動しているボランティアグループでも、令和8年1月、災害に関する勉強会を開催する予定である。一人一人が機会あるごとに、災害について考えることが大切であると思う。

【委員】私はカナダ出身であるが、住んでいた地域は災害とは無縁の土地だったので、有事の際の心構えは日本人とはかなりの差があると思っている。亀岡市は過去に何度も水害に見舞われ、委員の方の多くがその記憶と経験を持っておられることと思うが、正直なところ、私には想像もつかない出来事である。そこで質問だが、警察はどうやって在日外国人の防災対策を進めているのか教えてほしい。

【警察】当署としてはつい3箇月前、管内の大学に通う留学生を対象に「防災・交通安全教室」を実施した。そしてその中では、地震の際、身体に受けるダメージを最小限に止めるための方法・行動、ハザードマップ、防災意識の向上などについて学んでいただいた。また、外国からの技能実習生を受け入れている企業にも声を掛け、過日、同様の教室を開催した次第である。

【委員】災害発生時には警察の他に消防や自衛隊も活動されることと思うが、それらの機関とはどのような機会にどの程度、情報共有をされているのか。

【警察】自治体（亀岡市）による防災会議が定期的に開催されており、管内の危険箇所などを情報共有することで各機関が情報のアップデートを行っている。

【委員】私は消防団に所属していたことがあり、その時に先輩から言われた戒めが「分団長はその一言で、団員を危険な目に遭わせる可能性がある」ということだった。それほどにリーダーの判断というのは重要なものであると思うが、署長が署員を災害や事件現場へ出動させる際、どんな心境で送り出しておられるのか教えてほしい。

【警察】我々警察でよく言われるのが、「最大の不幸事は部下を殉職させることである」という言葉である。ひとたび殉職が発生すれば、組織としてだけでなく、その御家族や御両親などのダメージは計り知れない。そして、そのリスクは何気ない普段の仕事にも潜んでおり、リスクを抱えた上での判断・指揮命令は署長だけでなく、副署長や各課長にも及ぶことになる。よって、それぞれの立場で具体的に装備資器材の活用や合理的な手段・方法等を検討し、常に危険な状態が発生しないよう万全を期している。

また、警察官は危険な現場に遭遇した際、個々の判断で拳銃の使用をも許容される職業である。よって、普段から武道や拳銃使用判断訓練等を行うことで、各々の体力や判断能力を高めているところである。

【委員】警察の中で私たち市民に最も身近な存在は、何といても交番である。また、若い警察官が多く勤務されているのも交番だと思う。そこで、有事の際に新人の警察官をどのように指揮し対応されているのか、交番を例に教えてほしい。

【警察】確かに交番には若い警察官が多く勤務している印象を持たれていると思うが、全体を見渡せば年齢と階級でバランスよく配置を行っている。また、新任警察官には必ずベテランの指導警部補や巡査部長がつき、ひとり立ちができるまで同一行動をとり、仕事を覚えていく。そして、取り扱う事案内容によって各課がサポートを行っているところである。

「交番には若い警察官が多い」という印象は、新任配置は最初に必ず交番へ配置されるからなのだが、それは全ての警察業務の基本が交番にあるためである。また、市民の方と直接触れ合う機会が多いのも交番であり、若い警察官は交番で仕事の基本を学んでいる。

【委員】私は教育現場に携わっているが、本日の訓練見学では、その真剣さから大切なことを学ばせていただいた。普段から反復訓練を行うことによって有事の際には万全な対応が可能となるが、これは教育現場にも共通する部分が多々ある。私の職務にも生かしていきたいと感じた次第である。

【委員】訓練を見学し、普段からの備えの大切さを改めて感じた。自分の身は自分自身で守らなければならないし、住民は各居住地域で災害に備えなければならない。今日私が学んだ内容は職場の朝礼で発表して、多くの人に知ってもらおうと思っている。

【委員】本日は緊張感のある素晴らしい訓練を見せていただいた。最後に私から警察の方々へお願いしたいのは、有事の際には自分の身の安全を常に考えていただきたいということである。危険な現場に身を投じる職業であるからこそ、自分自身の身の安全を最優先に考えてほしい。一人一人の警察官にも両親、妻、子供、兄弟があり、それらの人を絶対に悲しませてはいけない。どうか、そのことを頭に置いた上で職務に励んでいただきたい。

4 事務連絡

令和7年度第4回京都府亀岡警察署協議会は、令和8年2月中に実施予定である。

以上

第3回京都府亀岡警察署協議会の開催状況

